

# 市民談話室

## 原稿募集

1月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111) (F333) です。



### 三世代同居の良さに接して 自然に言葉のリハビリが

「駄目なわねっか。そんな所に上がっては。お客様だから」と孫をしかるおじいちゃん。「おや、おじいちゃん、話ができるようになったね。良かったね」と言うニコッと。言葉の訓練でもしたの？」と長女に尋ねた。「いいえ。この子と遊んだり、しかっているうちに、自然に言葉が出るようになったみたい」と話す。

小林 ナヲさん(横町甲・助産婦・70歳)

「かられた子供が新生児のときに、訪問してあいさつする私に何の反応も示さなかったおじいちゃん。」「どうしたの？」と聞いた。「中風になってから、言葉が出なくなった」ということだった。妻が病気がちの家庭であるから、困るだろうと思っていた。その後、二女の第一子の訪問に行ったが、まだ言葉は出ていなかった。今回は二女の第二子の新生児訪問時の会話である。孫との接触が、おじいちゃん言葉のリハビリになったのだ。



生涯学習のついでに披露された庚の神楽舞

んは、幼児を抱いての案内だった。老人はボケていても、子供には関心を示し、良い結果が得られるという。また、祖父の存在が子供の発達上、かばったりしかつたりして、人格形成にも良い例をよく聞いたりする。病気の父の面倒を見ながらの子育てで大変だったであろうと、「ご苦労様」と思うと同時に、三世代同居の良い面に接した訪問を終えて、帰路は心が弾んだ一日であった。

### ボランティア活動の精神 新飯田中の活動に感動

吉沢

静さん(東筑場・機械加工・46歳)

先日、カルチャーセンターで行われた生涯教育実践発表で、わが茨城県地区の関根大八館長の報告と、二十年ぶりに復活したという庚部落の神楽舞の応援に参加させていただきました。館長は話の中で、何か良いことをした人は表彰をするといったことを話されました。私は十代後半より数年N.L.Gというグループ(郷土を愛する仲間)の一員として飛び回っていたころを思い出しました。月に一度駅舎のガラスふき、市内の公園の掃除、手弁当持参で一日がかりでやった市内のカーブミラー磨きなど。そしていた

いた「小さな親切運動」の小さなパッジ。今までの自分の人生の中でも、そんな体験が小さな自信にもなっているようにも思っています。先日の広報紙で、新飯田中学校の生徒さんたちのボランティア活動が大きく報告されました。本当に心からうれしくなりました。そして今後とも活動が広がり、持続することを願って止みません。「心豊かな思いやりのある子供を育てる」生涯教育としてつながる一番基本的なことと思っています。



老人運動会



菅原 ミウさん(上木山・農業・67歳)

### ぐるり白根に参加して 身近に感じられた行政

秋も深まった十月二十二日、市と中央公民館の主催する「ぐるり白根」に参加しました。当日は小春日和の暖かさに恵まれ、一行二十二人を乗せたバスは午前八時五十分、市役所前を出発しました。消防署を皮切りに鈴木仏壇工芸館、台和新潟製作所、亀田製菓、デイ・サービスセンターなど、次々に探訪したのですが、

どの施設、工場を訪れても温かい出迎えと心行くまでの案内。終始安らぎを与えられ、楽しく見聞することができました。中でも目を奪われ、心に刻み付けられたのはカルチャーセンターでした。今まで目の届かなかった屋内の隅々まで案内してくださり、立派な設備の数々に、目を見張り、驚くのみでした。また、昼食休憩室となったミーツイングルームでは、白根市の情景や人々の暮らしがビデオで映し出され、郷土にありながら郷愁を誘われる一コマでした。そして昭和六十年に完成したという衛生センターのし尿処理場のモダンな外観は驚きました。ゴミ、し尿の異臭など全くありません。説明を聞かされたら、ふだん何気なく出しているゴミについて考えさせられました。「ゴミは出してしまえばよい」ではなく、一人ひとりがゴミ処理者であることを認識し、ゴミを出すマナーを守り、ちよつとした心遣いでゴミを減らす工夫をしたら、少しは社会の役に立つのでは、と実感しました。ぐるり白根市を一巡りした施設探訪には、学び取るこ



野沢 健一さん(神屋・会社員・55歳)

### 安全と安らぎのまちづくりを 国道バイパス早期実現を望む

感じ取ることがまだまだたくさんありました。近代的な外観、充実した設備を誇る施設の数々は、白根市を象徴するように多くの人々に親しまれています。とかく役所といいますが、行政という重みを踏まえて、常に遠い存在にあり、私たちにはつれないものと思いがちですが、こうした催しに参加することで、行政の場が身近に感じられた「ぐるり白根」でした。



施設巡り「ぐるり白根」

すさまじいモーターゼーションの進展は平成時代に入り、再び輪禍の犠牲者を増加させている。これを第二次交通戦争という者も多い。要因の一つとしては著しい交通量の増加がある。このため本年十一月からは、幹線国道での自動車の制限速度が六十キロに引き上げられ、スピードアップを図るための道交法一部改正が施行されたことは周知の通りである。

市の中心部を縦貫する国道8号も、その混雑ぶりは例外ではない。市民生活の一部においての危険度および不満度は、ピークに達した感がある。信号機のない交差点、農道への横切りや

## 市民文芸

俳句

間引菜の葉ね易さに伸びてみし 成沢 愛明  
街角をまがればふつと秋の風 公條 雪夫  
着るほどに馴染む袖や秋日和 和泉 伸子  
枝豆を冷凍にもし顔からもし 山田 孝  
街の名と同じ川の名水澄める(大通川) 五十嵐寛吾  
梅一つつりのりて夜の長し 樋口 トシ  
本棚にそのまま在りし捨て困窮 豊木サダ子  
からみ合ひ寄り合ひて咲く彼岸草 古川 綾  
秋冷やガスの火青き鍋の底 堀内ナナ子  
叔を千才乾燥機鳴り長き夜 木村 トリ  
(以上大風会)  
栗飯に米寿の母あごうこく 玉木 長吉  
短歌  
亡き母が絵本がよめぬと孫なつ 小出よしの  
なげけし委いまま胸うつ  
窓外の狭庭の木々も装いで 中村 京  
和ら日差しに華やきて見ゆ 中村 京  
風に鳥越え海越え白鳥は

吾ら飄湖に羽根を休めむ 長谷川久二  
たべつけぬ百姓なりと我が息子 長距離運転に今日も帰らず 小出熊四郎  
川柳  
大胆に恥部を切り込みりポーター 田村 恒夫  
信心を金で測っている教祖 竹石 甚五  
蛇蝎第一位を射たい皇太子 中村 尚治  
いつか来る其の日に身辺整理する 西条 ムラ  
お小言も度重なれば愚痴になり 早川 英男  
天と地をむすんだ亡父の煙です 山岡 フミ  
スーパーの煽りて店の灯が揺れる 吉川 彰  
一年の苦勞を咲かす菊花展 米野 光雄  
過労死の柩に勤務票を貼る 今井 七郎  
一枚毎の写経に渴く余命表 織田 福治  
万歩計が寄り道ばかりして困る 織田 セツ  
教祖様衣を脱げば唯のギャル 後藤マサノ  
売れなくて脱ぐタレントの大胆さ 佐藤 トミノ  
お転婆もいつか花嫁衣裳着る 佐藤 ヨキ  
着く頃が食べ頃法被と補送る 高橋祐四雄  
暮れ文度嫁のしぐさが亡妻に似て 大井 義雄



十一月十二日、市と白根地区約魚連盟では大通川など三カ所にマブナの稚魚約二万匹(百三十キロ)を放流しました。これは資源保護と生態系の維持のため毎年行われているものです。